

指導教員名	上田真由美
-------	-------

活動区分	イベント企画型	連携先	企業
	IT活用支援型		

～ 神戸学生イノベーターズ・グランプリ(11グランプリ) ～

活動の様子



漢梅プレゼン風景



hi-lifeプレゼン風景



JOSEPHプレゼン風景

企画・活動概要

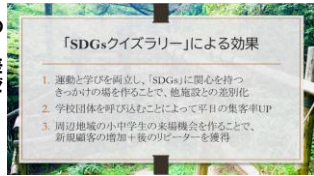
2022年度神戸イノベーターズグランプリは、六甲山観光株式会社の協力を得て、「コロナ禍により大打撃を受けた、六甲山観光の収益改善」というメインテーマ設定により企画提案を行った。上田ゼミ(2年生)では、3チームが参加し、1チームが決勝に進出した。上田ゼミでは、ゼミ生が若者視線で考え、近隣からのリピーター獲得を目指し、データ分析を行うとともに情報技術を活用した企画提案を行った。



漢梅プレゼン資料(一部)

経緯・背景・目的

全体のテーマは「コロナ禍により大打撃を受けた、六甲山観光の収益改善」であったが、上田ゼミではその後の研究演習のテーマにつなげることも考え、ゼミの特徴である情報技術を活用するという点を独自のテーマに加え、取り組んだ。取り組みでは、現状の問題点、提案、提案を実現するための手法、競合との差を明確にするよう、気を付けて準備をした。前年度に引き続きコロナ禍のため、ゼミ時間外に集まって作業をすることを減らすよう、クラウドサービスの活用などを積極的に取り入れた。



漢梅プレゼン資料2(一部)

取り組む課題

2年生3チームの提案内容は以下の通り。
 ・情報で奏でる(JOSEPH)
 静かにオルゴールを楽しむ層に対してプロジェクトマッピングを、アクティブな若者・ファミリー層に対して体験型アトラクションを提案。
 ・六甲山で優雅なひと時を(hi-life)
 オルゴールを聞きながらアフタヌーンティを楽しむプランを提案。SNSや学生アンバサダーによる広報についても提案。
 ・GREENIA SDGsクイズラリー(漢梅)
 近隣の小中学校の課外学習で活用できるよう、アスレチックを行いながらSDGsにまつわる学習ができる提案。



JOSEPHプレゼン資料(一部)

本学(学生)の役割

企業から与えられた課題に対して、提供されている情報と、自分たちで収集した情報を分析し、解決策となる提案を行うことが学生の役割である。2年生ゼミであり、自ら主体となって考える活動になれていないことを考慮し、グループで「自分たち、身の回りの人が行きたくなくなるプランは？」ということを議論した。ただし、企業に対する提案であるため、単なる「思いつき」ではなく、「現状の問題点」、「提案」、「提案を実現するための手法」、「競合との差」について考え、企業に対して説明できるように準備した。



hi-lifeプレゼン資料(一部)

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

本ゼミから漢梅が決勝に進出し、プレゼンを行った。初対面での活動開始、対象施設が複数存在するという状況で、活動開始当初は苦労したが、議論を重ねるうちに親しくなり、活発な議論ができた。活動の中で、アイデアだけでなくその根拠が重要であることを説明し、データ分析力を身に付けるよう指導した。また、グループ活動では自身の意見を発信するだけでなく、聴く力や役割分担が重要であることに気づくよう指導した。



hi-lifeプレゼン資料2(一部)

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>

経済学部
 経済情報学科
 教授
 上田真由美(ウエダマユミ)

<関係者・企業等>

六甲山観光株式会社

<専門・担当科目等>
 (専門) データ分析、情報推薦、ユーザ支援
 (担当科目) 情報学概論、意思決定論など

<コメント等>
 情報技術を活用して、日々の生活をより便利に、安全に、楽しくできるような研究をゼミで行っています。社会共創活動は、実際に企業が求めていることに対して、ゼミのメンバーでより良い提案ができるよう、議論を繰り返しています。